

# 2023年度入試 合格体験記

東京外国語大学外国語学部

言語文化学部言語文化学科（朝鮮語）

寺屋克洋

（Iコースグローバル課程・小川町立東中学）

## 「4年越しに叶った夢」

私は学校推薦型選抜入試で東京外国語大学言語文化学部合格することができました。私が東京外国語大学へ行きたいと思い始めたのは中学生のころです。子どものころから外国の文化に興味を持っていた私は、外国に関することを学べる大学では日本トップである東京外国語大学に大きな憧れを抱いていました。

東京外国語大学に学校推薦型選抜入試という入試方法があることを知ったのは、高校2年生の12月です。模試でいい成績を残すことができなくなり、東京外国語大学を諦めて違う大学を目指そうと思い始めたころでした。この入試制度は私にぴったりでした。公募型の推薦は出願条件が高いことが多く、東京外国語大学の場合は、学習成績概評A段階、CEFR B2以上が条件でした。私は中学生のころから得意教科だった英語の学習を努力し続け、定期テストや日々の授業を集中して行っていたため、これらの条件を満たすことができました。また、推薦では学力だけではなく、高校3年間を通してどのような活動をしたかも重要になります。グローバル課程に所属していた私は、高校1年生のころから英語のスピーチコンテストや海外の学生との文化交流に積極的に参加することで、推薦で重要視される実績を積んできました。

しかし、入試当日の試験内容は、小論文と面接でした。私はそれまで小論文は書いたことがなく、面接の経験もあまりありませんでした。あまつさえ、塾や予備校に通っていませんでした。そのため、小論文は、自分で買ったテキストや図書室にあった参考書などを用いて小論文の経験を積みました。面接は、過去に同じ大学を受験した先輩方の体験記をもとに問われそうな質問をいくつも考え、放課後に先生との練習を何度も繰り返しました。その結果、本番では小論文も面接も落ち着いて行うことができました。

自分の好きなものへの興味を持ち続け、得意なものを伸ばし続けたおかげで、中学生のころからの夢を叶えることができました。後輩の皆さんも、受験へ直接通ずる勉強だけでなく、自分の「好き」と「得意」を大切にしながら学校生活を送ってください。そして、国立大学だけではなく、私立大学でも公募型の推薦がある大学が多くあります。一般入試での受験を考えている方も、合格のチャンスを増やすために公募型推薦に是非チャレンジしてみてください。

# 2023年度入試 合格体験記

北海道大学総合理系	鱒淵瑛梨 (一貫コース・附属中学)
<p style="text-align: center;">「夢を目標に、目標を現実に」</p> <p>私が学校生活において大切だと思うことは、自分で決めたことをやり通すことです。なんて書いたら、まるで私がきっちりしていてストイックな人間みたいに感じられるかも知れませんが、全然そんなことはないんです。私自身はとてもルーズで自分に甘い人間です。しかし、むしろそういう人こそ自分で決めたことをやり通すことが目標を達成するための鍵だと思います。</p> <p>私は基本的に見通しが甘く、1時間で終わると思った課題が3時間かかったり1日に5ページ進むはずだった参考書が3ページしかすすまなかったりと予定通りにいかないことがしょっちゅうありました。そこで計画を立てる段階で保険をかけておくという作戦を取りました。</p> <p>「今日はこの参考書の問題を5題解けたらいいな一、じゃあそれを理想として最低3題は解こう。」というように2段階でノルマを設定し、最低限これはやろうと思ったことは必ずこなすようにしたのです。</p> <p>最初は目標なんかなんでも良くて決め方だってゆるゆるでいいです。たくさん保険をかけていいです。その代わり、自分で決めたことはしっかりやりきってください。やりきった経験が積み重なっていつの間にか夢や願望が手の届く目標になります。皆さんが望む道が拓けるように応援しています。</p> <p>『Boys, be ambitious!』</p>	

東京学芸大学教育学部学校教育教員養成課程 初等教育専攻・家庭コース	向後里彩 (Iコース・行田市立太田中学)
<p style="text-align: center;">「受験期は自分と向き合える期間」</p> <p>私が大学受験を良い結果で締めくくれたのは、2つのポイントがあったと思っています。1つ目は志望校の志望理由を明確にしたこと、2つ目は最後まで苦手克服を諦めなかったことです。</p> <p>1つ目について、私が志望校を東京学芸大学に決定したのは高校3年の5月です。それまでは埼玉大学を志望していました。しかし、本格的に受験勉強を始めたとき、自分は本当に埼玉大学に行きたいのかな?という疑問が出てきました。それまで、なかなかオープンキャンパスや説明会に参加できず自分の進路としっかりと向き合うタイミングを作れずにいたのが原因でした。志望校を決めるために私がしたことはまず、将来どんな職業に就きたいのか、さらにその職業でどんな人になりたいかについて毎日考えました。さらに、その理想を実現するためにはどのような学びが必要で、その学びをするにはどの大学がベストなのかを調べ考えました。このようにして第一志望校を決定したおかげで、なぜこの大学に行きたいのか明確になり、勉強への意欲が自然と高まりました。高校3年になり早く決めなければ、と焦る気持ちはありましたが、自分と向き合う時間を取ったことで長期間の受験を乗り越えられたと思っています。</p> <p>2つ目について、私は数学がとても苦手でした。しかし、第一志望校が国立大学だったため苦手克服のために多くの時間をかけました。12月になってもなかなかうまくいかないときはもう無理かもしれないと思いましたが、東京学芸大学に行きたい理由が明確になっていたため最後まで頑張ろうと決心できました。その結果、共通テスト本番では今までで1番良い点数をとることができ、最後で諦めず努力してよかったと思いました。私は共通テスト本番の国語で想定していた点数を大きく下回ってしまいましたが、これまで苦手としていた数学で国語の失点分を補うことができました。国立型でよかったと思うと同時に数学を頑張れたから志望大学に出願できたのだと自信にもなりました。</p> <p>この受験の機会を自分と向き合う期間だと前向きに捉えて頑張ってください。</p>	

# 2023年度入試 合格体験記

東京学芸大学教育学部学校教育教員養成課程

初等教育専攻・家庭コース

星野愛

(Ⅱコース・日進中学)

## 「挑戦」

私は公募推薦で東京学芸大学に合格しました。最初は国立大学を自分が受けるなんて思ってもいませんでしたが、高校2年生の終わりにⅡコース文系でも公募推薦なら国立大学を受験できると知り「どうせやるなら思い切って挑戦してみよう！」と思い受験を決めました。

私は陸上部に所属しており、11月の受験1週間前まで部活が続ききました。部活があるとどうしても勉強時間が取れなくなりますが、テスト前だけ勉強、大会前だけ部活というように“0か100”にするのではなく割合を考え、テスト前でも走る時間を作る、大会前でも勉強する時間を作るなど、移動時間や隙間時間を工夫して使い文武両道に務めました。

最初は上手く行かず慣れるまで大変でしたが、陸上部のみんなが同じ空気感を持ち、一緒に文武両道を心がけていく事でそれが当たり前の日常になり、自然に取り組む事が出来ました。

公募推薦は志望理由書や面接・小論文が必ずと言っていいほど出題されます。その為、まず自分が将来やりたいことは何か、それに対する強い思いや、何を学び、どう実現していきたいのかを明確にし、自己分析していくことが大切です。もちろん進路が決まらなくて悩んでいる人もいます。時間は有限ではありますが、しっかりと自分が納得できる選択ができるよう、時間をかけて自分自身と向き合ってみてください。人前で話したり小論文を書いたりする推薦入試が得意な人や、コツコツ勉強する一般入試が得意な人など、自分が得意とする受験方法も人それぞれ違います。今までの高校生活を振り返り、自分の強みは何かを考えることで力を最大限に発揮できると思います。

私は正直チャレンジの意味で受けたので絶対受からないだろうと諦めそうになったことが何度もありました。でも一緒に頑張ってきた仲間がいたからこそ、最後までやり切ろうと志望校を変えずに挑戦し続けることができました。まさか合格できるなんて私自身が一番驚いたし、とても嬉しかったです。この仲間がいなければ今の私はいないと思います。そんな環境を作ってくれた先生方、陸上部の仲間に本当に感謝しています。

上限を決めず、諦めなければ可能性は残ります。みなさんも自分の夢に正直に、悔いのないよう勉学に励んでください。そして最後まで自分を信じてあげてください。

# 2023年度入試 合格体験記

埼玉大学教育学部学校教育小学校  
言語文化専修（英語）

松澤 勇成  
（Iコース・鴻巣西中学）

## 「受験で大事なこと」

これから私が受験期に大事にしていた事を大きく3つに分けて話して行きたいと思います。

1つ目は授業です。これは受験期に限らず1、2年次から大事にしてきました。授業の復習はもちろん、その中でわからない事があつたらそのままにせず必ず納得するまで調べました。また、同時に大切なのは定期テストです。私が所属していた卓球部はテスト1週間前から休みがあつたため十分な備えができました。テストで頑張った事は後々必ず生きてくるので全力で取り組んでみてください。

2つ目は何事にも一生懸命取り組むことです。これは勉強に限らず部活や習い事などでも良いと思います。私は初心者として卓球部に入りましたが日々熱心に練習し、凶らずも最後の大会に出場することができました。結果がついてきたら幸いですがそれより自分が一生懸命取り組めたという事が大きな自信になると思います。

3つ目は人に頼る事です。私は頑張っていると無意識のうちに視野が狭まってしまうので、もうどうしようもない、自分だけではわからない状況になったら周りの先生や家族、友人に助けを求めるように心掛けていました。また受験期は様々なストレスがかかってくると思いますが溜め込まず適度に発散すると過ごしやすくなると思います。

受験勉強は簡単ではないですが地道に積み重ねたものは必ず良い形で結果に現れてくると思います。一日一日を大切に目標に向かって精一杯取り組んでください。心から応援しています！

# 2023年度入試 合格体験記

埼玉大学理学部基礎化学科

小堀武瑠  
(Iコース・川島町立西中学)

## 「今、“のび太君”である君へ」

私は、入学時はIIコースにいました。そして、現在に至るまで塾・予備校・家庭教師を利用したことがありませんし、経済的事情で国立しか受けませんでした。しかし、私は第一志望に合格しました。これらは、入学時の学力や経済的事情に関係なく、万人に受験成功の可能性のあることを意味します。

私は、小さい頃から学者になることを夢見てきました。しかし、学者になるには程遠い“のび太”脳で、経済的にも“スネ夫”のような環境ではありませんでした。そこで、自分は「国公立しか行けない」と考え、大学を調べた結果、やりたい研究があったのが埼玉大学でした。そこから、時間の経過とともに、目標と予定を立てていきました。

IIコースからIコースへ編入(1年)

→各教科で具体的な得点の目標を定め始める(2年)

→実力判定テストで公募制の校内「1名」の枠内に入る(推薦・3年9月)

→埼玉大学で面接試験を受験(推薦・3年11月)

→共通テスト受験(推薦と一般・3年1月)

→結果発表(推薦・3年2月上旬)

→国立の前期受験(一般・3年2月下旬)

→国立の後期受験(一般・3年3月)

具体的な勉強方法としては、「インターバル復習」を用いると、忘却曲線に対抗できると思います。また、英語と国語と社会はいろんな問題集を解き、数学と理科は、同じ問題集を繰り返す(学校の問題集で良い)と良いと思います。

最後に、私は未だに“出木杉”ではありませんが、“出木杉になり得る人物”はどのような人物か見つけました。それは、「あきらめの悪さを持つ人+人よりも早く物事に励む人」だと思います。私のように「夢」を持ってなくても、小さな「目標」を持つことは誰でもできるので、まずはそこから始めてみてはいかがでしょうか。ご健闘をお祈りいたします。

埼玉県立大学保健医療学部看護学科

小泉 佳帆里  
(Iコース・鴻巣市立鴻巣北中学)

## 「自分に合った勉強法」

私は公募制の推薦入試を受験しました。元々は一般入試のみでの受験を考えていて、最終的な受験形式を決定したのは3年生になってからです。私は文系として授業を受けていたので、一般入試に必要な理科の専門科目は自分なりに勉強をしました。最初は不安もありましたが、同じ経験をした先輩にアドバイスをいただいて、先生や友達に助けられながら、焦らず自分のすべきことを整理していきました。推薦入試に関しては、夏休み前から入試直前まで繰り返し過去問に取り組んで先生に添削していただきました。私は気が散りやすいので、夏休み中は学校、図書館、自宅と場所を変えて、移動時間や身支度の時間を気にするよりも集中できる時間をつくることを優先するようになっていました。私もそうですが、計画を立てることが苦手な人も、闇雲に勉強をするよりは1年ですること、1ヶ月ですること、1週間、1日、午前中…と漠然とでもいいので目標などを考えてから動く、心に潜む後悔やモヤモヤが減ると思います。自分には自分のペースがあるので、速くても遅くても、それぞれが進み続けることのできるペースを徐々に確立していけばいいのではないのでしょうか。周りと比較することで自分を悪者にせず、心を大切に日々の勉強を積み重ねてみてください。最後まで自分の目標を見失わずに、頑張ってください。応援しています!